

私の農業経営

天水支部 田中 裕人

イチゴの花言葉を知っていますか。花言葉は『幸福な家庭』『先見の明』『尊重と愛情』『あなたは私を喜ばせる』などがあります。イチゴは一株から、どんどん子株を伸ばして増えていきます。それぞれの株から子だくさんにたくさん実をつける様子から、「幸福な家庭」という花言葉がついたと考えられています。

また「先見の明」は、いちごが育った水で眼を冷やしたり、視力を回復させたりといった効能が信じられていたことに由来します。

私は玉名市天水町で生まれ育ちました。天水町は米、麦、柑橘、トマト、ナスなど農業の盛んな地域でもあります。

現在、我が家では両親と妻の4人で『ゆうべに』という品種のイチゴを21aの5連棟ハウスで栽培しています。

『ゆうべに』は熊本県のオリジナル品種です。紅色が鮮やかな大玉で、甘みと酸味の絶妙なバランスとフレッシュな果汁、そして芳醇な香りが特徴です。

そんなイチゴについて学びたいと思い、地元の農業高校へと入学しました。初めは野菜コースを希望しましたが、最終的に果樹コースを専攻しました。

それは当時、我が家では柑橘も栽培していたことと、高校ではイチゴを栽培していなかった事もあった為です。それに果樹コースで勉強しておけば将来、柑橘を栽培する上で役に立つと思ったからです。

そんな矢先、我が家の経営はイチゴだけの栽培に移行しました。そんな事もあり高校卒業後は大学へ進学し、イチゴについて学びたいと思うようになりました。

そして、県内の農業大学校へと進学しました。農大は2年間の短い学生生活ではありましたが、全寮制となっている為に直ぐに友人が出来ました。

また、毎日が楽しく中身の濃い、修学旅行みたいな楽しい寮生活を送る事が出来ました。勉強は農業の基礎知識はもちろんの事、たくさんの資格も取得する事が出来ました。

イチゴの研究では、多品種を試験的に栽培しました。品種別の特性を比較したり、栽培管理方法の違いによる成育に及ぼす影響などについて研究していました。

また、農家研修など実際に受入農家さんと一緒に作業することで、新鮮な声を聞く事も出来ました。初めて訪れた合志市の受入農家さんでは、ナイアガラ育苗を採用されていました。

ナイアガラ育苗とは上段のベッドに親株を植え、滝のように伸長させ苗を採る育苗方法です。この方式は、病気が少なく、少ない面積で育苗できます。

また、球磨郡あさぎり町の受入農家さんでは、吊り下げタイプのスプリンクラーを導入されていました。吊り下げタイプにする事で消毒ノズルが干渉しなくなり作業効率をアップ出来るようになります。そして、この灌水設備は我が家に導入するきっかけとなりました。

このように地域によって様々な管理方法があり、学校では学ぶ事が出来ない栽培管理方法など、貴重な体験をする事が出来ました。

そんな貴重な農大生活もあっという間に2年が過ぎました。

農大卒業後、友人達は就農する一方、私は直ぐには就農せず一度きりの人生だからと思い農業とは違う仕事に就いてしまいました。就職後も以前と変わらず友人や恩師の方と定期的に交流がありました。その席で話す事はもっぱら農業についてです。

就農した友人の1人が「早く一緒に農業をしよう。作物は違うけど農業はやり甲斐のある仕事だぞ」と熱く語っていたのを、今でも鮮明に覚えています。

そんな事もあり農業に対する熱い思いが再び込み上げてきました。

また、両親の事を考えた時に元気な今なら一緒に農業を学べると思い農業を始めるなら今しかないと自分を鼓舞しました。

そして、遠回りはしましたが3年前に就農しました。

就農してまず1年目は、育苗管理から始めました。

5月下旬より、親株から発生するランナーをポットに指し、7月中旬頃、親株から子苗を切り離し管理します。それと並行して本圃の準備、畝立てをしなければなりません。9月下旬、花芽分化が確認出来たら苗を本圃に定植します。その後、マルチ張りやハウスビニール張りを終えて順調にいけば、11月下旬より収穫が始まります。出荷が始まると休みがほとんど無く、早朝より毎日収穫してパック詰めに追われます。腰をかがめながらの収穫は腰にとっても負担がかかります。また収穫したイチゴ一粒一粒を潰さないよう丁寧に扱いバランス良く並べ、なおかつ規定の重さになるよう

に詰めるのは本当に苦労しました。その作業を半年間ほど終え、5月下旬になると出荷も終了し圃場の片付けとなります。

このように1シーズンを通して、両親の背中をみながらイチゴ栽培を学びました。改めて農業の大変さが身にしみて実感しました。

そして2年目に入り、私事にはなりますが結婚することが出来ました。担い手不足の職柄ではありますが「一緒に農業をやりたい」と私の農業への魅力を感じて貰えたのだと思います。

更に、今後農業をやって行く上で、課題も3つほど見つかりました。

1つ目の課題は仲間の存在です。圃場の畝立てやビニールの被覆作業、苗の定植やマルチの被覆作業など、地域の方の協力無くして農業は出来ないと思いました。しかし、地元から離れていた事もあり、地域交流がほとんど無かった為に上手く馴れないで居ました。そんな時、地元の先輩から青壮年部の事を聞きました。「青壮年部では同じイチゴ生産者もたくさん居るし、同世代の仲間達が居るからすごく勉強にもなるよ。アドバイスも聞けるから一緒に入ってみないか。」と誘って頂きました。

これはチャンスだと思い、すぐに青壮年部への入部を決め、念願の盟友が出来ました。そんな矢先、コロナ禍となり活動が一部制限されました。最初は不安な気持ちもありましたが、イチゴ栽培への熱い情熱であったり、管理方法のアドバイス等を丁寧に教えて頂いた事もあり、不安もすぐに無くなり青壮年部に入って本当に良かったと思いました。

2つ目の課題は気候変動による管理方法の多様化です。記録的な大雨や気温の上昇により栽培管理が大変な事です。

例えば、去年の管理方法では通用出来ていたものが、翌年にはまったく通用しないし通用したけど思うように成育しないなど、管理方法を変える必要があるからです。

地域の方もこれには悩まされているようで「何十年もやってるけど毎年毎年が農業1年生だよ」とおっしゃっていました。

それを聞いて、私も納得するしかありませんでした。

ただ、その反省点や失敗が次年度に活かされた時の感動が農業のやり甲斐であるとも思いました。

3つ目の課題は物価の高騰です。我が家のハウスは柑橘栽培をしていた事もあり、周りのイチゴハウスに比べると天井が高く、冬場の暖房費がかさむことです。

そのため、経費は多少かかるものの、これからの農業経営には不可欠な投資だと思い、今年から二重カーテンを施工する事にしました。

また、農薬や肥料等の値上げに伴い、必要最低限の必要経費で済ませる為にも、勉強会などあれば積極的に参加しようと思います。

3年目には本格的に両親と私達夫婦の4人で栽培管理を行いました。少しではありますがこれからの家族経営の型が見えてきたところです。そして4年目以降はこれらの課題をクリアし魅力ある農業、やり甲斐のある農業を実践して行きます。

近い将来、両親から私達夫婦へと我が家の経営を任されるでしょう。まだ知識も経験も足りない2人なので両親のアドバイスを取り入れながら、どうするのがベストなのか、その為には何が必要なのか。私なりに答えを出して、試行錯誤し努力して行きたいと思います。その中で意見の違いや悩み事で、夜も眠れない日もあるかもしれません。

しかし、そんな時は自分達で悩まず、盟友の方や地元の先輩方にも相談しようと思います。改めて私は青壮年部に入り、信頼出来る方、知識経験を教えて下さる方、時には親身に相談に乗って下さる方、色んな方と巡り会いました。青壮年部に誘って下さった先輩には本当に感謝しています。

そして両親が安心して、2人に仕事を任せて良かったと思ってもらえるようになります。友人達にも自慢できるイチゴ、そして美味しいと言って頂けるイチゴを生産したいと思います。

最後に、私が農業を始めたように農業の魅力であったり、やり甲斐のある農業をたくさんの人に伝えて行きたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。